

令和2年度第1回生野区区政会議まちの未来部会

1 開催日時

令和2年8月6日（木） 19時00分～20時35分

2 開催場所

生野区役所6階大会議室

3 出席者

（区政会議委員）6名

宮崎委員、山本委員、樋崎委員、石崎委員、伊藤（千）委員、田中委員

（生野区役所）9名

山口生野区長、櫻井副区長、橋本企画総務課長、清水区政推進担当課長、井平安心まちづくり担当課長、森地域まちづくり課長、杉本まちづくり推進担当課長、式地企画総務課長代理、森企画総務課代理

4 委員に意見を求めた事項

（1）令和元年度生野区の取組振り返りについて

資料1 令和元年度生野区の取組振り返りについて

：まちの未来部会用抜粋分

参考資料1 令和元年度生野区運営方針

：まちの未来部会用抜粋分

参考資料2 これまで部会にいただいたご意見一覧（令和元年度）

参考資料3 本市における新型コロナウイルス感染症に関する主な取組

（2）その他

5 会議内容

○伊藤（千）副部会長

よろしくお願ひします。こんばんは。本日部会長に代わりまして進行を務めさせていただきます、副部会長の伊藤です。よろしくお願ひいたします。

ただいまから令和2年度第1回まちの未来部会を開催します。

区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが区役所と一緒に、なって意見を述べる場となっています。部会に出された意見は全体会議において報告し、共有することとなります。その中でこの部会は生野区のまちの魅力や地域活性化等について有効で活発な議論が行えるように意見交換を進めていきますので、皆様、よろしくお願ひいたします。

それでは開催にあたりまして、山口区長からご挨拶をお願ひいたします。

○山口区長

皆さん、こんばんは。本日はお忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。この新型コロナウイルス感染症がずっともうこの半年ぐらい広がって、区役所のほうも保健福祉センターを兼ねておりますので、そういった感染症対策の部分でも大変忙しくしておりますし、またセーフティーネットとして生活が困難な方がまた増えてきますので、そういった対応にも追われているところです。

そんな中で、昨年度の取組をまずこの部会では評価していただく、話し合っていたとすることで、昨年まちの未来に関して区役所として取り組んできたことを、またご説明も差し上げてご意見をいただき、その上で、まちの、在り方とか、これからの新しい生活様式といわれる、いわゆるイベントとかそういった人が集まるといことがすごくやりにくくなった、この中でどうやっていかにこの生野区をまちの力をしっかりと盛り上げていくかも、またご意見をいただけたらうれしいなというふうに思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

○伊藤（千）副部会長

ありがとうございます。それでは議事に入りたいと思いますが、会議の円滑な運営に資するため、ここからは学識の委員であります近畿大学の田中委員に会議の進行等をお願いしたいと思います。田中委員、よろしく願いいたします。

○田中委員

副部会長からご指名をいただきました田中でございます。これから会議の進行をさせていただきますので、皆様、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、お手元の会議次第に沿いまして、議事1 令和元年度生野区の取組の振り返りについてということで、区役所のほうからご説明をお願いいたします。

○式地企画総務課長代理

企画総務課の式地と申します。それでは、私のほうから一括してご説明をさせていただきます。着席にて説明させていただきます。

今お手元に配付しております右肩に資料1と書かれた元年度の生野区の取組の振り返りについて、まちの未来部会の抜粋分というものがございます。そちらをご覧くださいと思います。

これは昨年度の取組結果をまとめたものでございます。まず、1枚お開きいただきまして、3ページをご覧ください。元年度の主な取組といたしまして、ここに記載のとおり大きく3項目についての取組を展開してまいりました。それでは、個々の取組についてご説明させていただきます。

4ページ、5ページをご覧くださいと思います。ものづくりの伝統を守り受け継がれるための支援における取組でございます。今ご覧いただいております生野ものづくり百景は、区内の製造業で働く人や技術の魅力をイラストを交えながら紹介するリーフレットで、元年度は23社を追加し、これでタイトルに「百景」とあるように目標であった100社に到達することができました。今後も引き続き、イベント等において、このものづくり百景をパネル展示するなど、ものづくりのまち生野区を広く発信してまいりたいと考えております。

6 ページをご覧ください。これらの取組のほか18回目となる生野工業高校と共催で開催しました「ものづくり教室」の開催や「いくのものづくりものがたり」の第2章として切子ガラスや大阪唐木指物などの体験をするワークショップ、見学ツアーなどを開催しまして、こどもたちにもものづくりに触れる機会を提供することができました。

これらの取組によりまして、7 ページにございますように、業績目標としておりました見学会などへの参加者数及びホームページのものづくりビュー数ともに目標を達成しているところでございます。また、ワークショップの参加者アンケートでは、「また機会があれば参加したい」、「伝統芸能に触れる機会を与えてもらい感謝」といったご意見、ご感想をいただいております。

次に、8 ページをご覧ください。空き家の利活用による新たな魅力づくりの取組でございます。生野区は戦災を免れた古い木造の長屋が多いことや権利関係が複雑など、不動産ビジネスに乗りにくい物件が多いことから、空き家のまま放置され、建替えや利活用が進まない状況にあります。こうした空き家の建替えや利活用を促進するため、元年度においては、民間主導の地域が主体となった貸し手と借り手が出会う場の空き家カフェに参加をいたしまして、空き家利活用改修補助制度などの利活用に関する情報提供を行ったほか、空き家カフェを運営します「空き家活用プロジェクト」と共催して、「空き家カフェ拡大版」を開催し、シンポジウムなどを行うなど、41名の方が参加されました。

このほか、「広報いくの」による生野区内の空き家利活用事例を紹介するなど、空き家の利活用の促進に関する取組を進めてまいりました。

9 ページですが、これらの取組によりまして、業績目標の空き家利活用に関する取組が進んでいると感じる区民の割合の目標については、達成している状況でございます。空き家カフェ拡大版の参加者アンケートでは、新しい取組に夢を感じるとか、空き家を今後活用していくためのヒントを得ることができたなどの意見、ご感想もいただいているところでございます。

次に、10 ページをご覧ください。生野の魅力の発掘・浸透の取組についてです。生野区が有する魅力的な地域資源をより一層知ってもらい、その魅力をより高められるよう、また職員による暮らしや仕事への取材を通して地域に密着した顔の見える広報を意識し、ここに記載しております広報紙やブログ、ツイッター等、各種広報媒体の特性を生かしまして、また子育て層や若年層等のターゲットごとに区の内外に効果的に発信を続け、各種広報媒体への関心をより高めてもらえるよう情報発信に取り組んでまいりました。

11 ページ、業績目標についてですが、これらの取組により目標としておりました年間ブログビュー数及びプレス情報がメディアで取り上げられた件数については、それぞれ目標を達成しております。

次に、12 ページをご覧ください。区民のわがまち意識を育てる取組でございます。取組実績といたしましては、生野のまちに誇りや愛着を持ち、生野区を盛り上げるために様々な取組を自主的に行っている区民や「生野区持続可能なまちづくり事業」に認定された団体等の活動を広報紙やブログに掲載するなどの

広報支援等を行いました。また、区民まつりでのやさしい日本語のブースの設置や多文化共生のまちづくりシンポジウムの開催のほか、大阪市内で銭湯の数が突出して多い生野区におきまして、区内の銭湯とともに防犯標語の「おこのみやき」の啓発を毎月19日の「いくのの日」に子育て世代の銭湯利用の促進、防犯意識の向上、地域の活性化を図ることを目的として実施いたしました。この取組を通じて子どもたちが銭湯文化に触れると同時に、防犯意識も高めていただけたと考えております。

しかしながら、こうした取組を実施するものの、13ページでございますように、業績目標の生野区を盛り上げる様々な取組が各地域で行われていることを知っている区民の割合については、目標を大きく下回る結果となりました。今回の結果では、やはり若年層や居住年数が短い方の指標割合が低く、今後は、こうした方への戦略的なプロモーションが必要であると考えておりまして、引き続き、広報紙での情報発信に加え、SNSを通じた情報発信を引き続き行ってまいりたいと考えております。

次に、14ページをご覧ください。地域活動協議会の支援についてでございます。地域課題に取り組む地域まちづくり協議会が自律的な地域活動を進められるよう地域活動協議会補助金を交付しまして、財政的な支援を行っております。令和元年度では19地域で総額3,141万3,000円の補助金を交付いたしまして、各地域において様々な地域活動が行われました。

15ページです。その業績目標ですが、目標としておりました地域活動協議会の構成団体が自分の地域に則した支援を受けることができていると感じた区民の割合の目標83%を上回った結果となりまして、目標は達成している状況でございます。引き続き、本制度を有効に活用できるよう中間支援組織と連携して支援を行ってまいります。

次に、16ページをご覧ください。地域活動協議会の自律運営促進の取組についてでございます。先ほどの補助金の交付だけではなく、新たな地域コミュニティの支援事業として地域まちづくり協議会の支援を行っております。民間事業者のノウハウを生かして地域まちづくり協議会の事務局機能の充実や地域活動の担い手の確保などの取組を進め、NPOや民間事業者との連携に向けた取組など、地域まちづくり協議会の新たなステージに向けた支援を中心に行ってまいりました。

17ページのこうした取組によりまして、業績目標のまちづくりセンター等の支援を受けた団体が支援に満足している割合については、78.8%と目標を達成している状況でございます。

以上、各取組についてご説明をさせていただきました。

18ページについては、これらの取組の目標達成状況をお示ししております。

最後に、19ページでございますが、達成状況を踏まえた評価結果の総括についてでございます。区の魅力あるまちづくりを目指しまして、生野区が持続可能なまちとなるためには、やはり主に若年・子育て層の移住・定住の促進や子育て層や若年層等をターゲットとした効果的なプロモーションを行う必要があります。

そのためにも、生野区が有する魅力的な地域資源、ものづくりのまちなど、より一層その魅力を高められるよう広報紙やブログ、ツイッター等各種広報媒体の特性

を生かすとともに、官民連携によるプロモーションを実施しまして、区の内外に効果的にまちの魅力を発信することで区の魅力あるまちづくりにつなげてまいりたいと考えております。

以上が元年度の生野区の取組振り返りについての説明ですが、続きまして、参考資料3といたしまして、お手元に配付しておりますA3横の資料の本市における新型コロナウイルス感染症に関連する主な取組をご覧いただきたいと思っております。

これはこの間、大阪市として取り組んでおります感染拡大防止対策や、市民生活への支援、経済支援など、全ての項目ではございませんが、主なものをお示しさせていただきます。

本日は、個々の取組についての説明はいたしません、この中にもございます市民生活や経済支援の各種制度等についての詳細につきましては、資料右下に記載しております新型コロナウイルス感染症対策支援情報サイト、こちらでご確認いただけますので、後ほどご確認いただければと思っております。

また、こうした取組のほか、このコロナ禍においては災害時の避難所での感染対策が新たな課題となっております。現在、生野区ではコロナ禍における避難所の開設から運営に当たりまして、資料番号はございませんがお手元にお配りしております避難所運営マニュアル、これを作成いたしまして、これに基づき、実際に職員による避難所開設のシミュレーションを行うなど取組を進めており、また感染対策に必要な物資の調達も順次進めているところでございます。

しかしながら、避難所に多くの方が避難しますと、その分感染リスクは高くなりますので、コロナ禍における避難行動としては、分散避難をお願いしているところでございます。まずは自宅が安全な場合は自宅での避難を、自宅が危険な場合においても、事前に親戚や知人宅、ホテルなどへの避難を検討していただくなど、避難所への避難を極力減らすための分散避難についての呼びかけを今現在進めているところでございます。

委員の皆様におかれましても、地域においてこうした呼びかけをしていただくなど、ご協力をいただければと考えておりますので何とぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○田中委員

ありがとうございました。ただいまのご説明について委員の皆様、何かご意見とかご質問ございますでしょうか。ご発言をいただく際には、手を挙げていただいて、お名前を述べていただきますようよろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

これ目標達成状況、すばらしいですね。1つだけちょっと区民のわがまち意識を育てるといのがちょっと未達成と書いていますけれども、そのほかは全て達成しているということですが、いかがでしょうか。お願いします。

○宮崎委員

自己紹介から。

○田中委員

お願いします。

○宮崎委員

地域委員の御幸森から出ております宮崎です。よろしく申し上げます。

目標達成評価結果の総括のほうには出ているんやけどね、まちの未来部会の1番のところに書いてあるように、主に若年・子育て層の移住・定住促進、子育て層や若年層ら、これが一番若い人が住んでくれないと生野区の未来はないと思うんやね。若い人が生野区に住みたい、住み続けたいということの地域をまちの未来、未来をつくる、その未来というのはここにものづくりなんか書いているけどね、ものづくりというのはもう終わったんですよ、昔の話。

生野区、ものづくりいろいろしていました。縫製業もありました、ヘップ産業もありました。もっといろんなものがありましたけどね、みんなね、国際値段と言われるんですよ、国際価格なんですわ、ものの値段が。そやから日本で100円で一生懸命コストダウンして作ってもね、海外で50円で作られたら、もうそれは作る値打ちがないわけなんですわ、仕事が100%なくなったんですわ。縫製産業なんか100%駄目ですよ。コスト的にもそうです、技術的にももう向こうの海外のほうがまさってきたからね。だからそやのに、今まだものづくりなんか書いているからね。

ものづくりなんかは、伝統工芸品とか、アイデア商品とか、特殊技術とか、そういうものがない限り、もう一般のものを作るというのは、ものの値段ですから、価値の値段というのが、今までは昭和40年頃までは日本の値段でものが作れたんですわ。ところが、もう完全に世界に市場が開放されましたからね、そやから、あらゆるものの値段は国際価格ですもん。そやから、国際価格に耐えられるものづくりなんかは、もうごく一部のことでね、それをだから生野区なんか、ほとんど下で仕事をして、それで2階で住まいして、それでもものづくりをしてたうち、片っ端からそういうふうにして生活していたんです。

ところが、あらゆる今言うヘップ産業にしろ縫製産業にしろ、いろんな産業がみんな国際価格という大きな流れが来たからやね、国際価格で1,000円と言われれば、何ぼ努力しても3,000円、もう1,000円で市場が流れてきたら潰れるのは当たり前なんですわ。だから、ものづくりは、僕はもう生野区は諦めたほうがね、めがね産業とかいろいろあったけどね、もう全部ほとんど総潰れですわ。

そやけど、残っているのは伝統工芸とか、特殊技術を持っているとか、特別なアイデアがあるとか、そんなのは残りますよ、そやけど普通のものを作るということになったらね、国際価格で競争できる価格を提示せん限りはものづくりは、ほとんどのものが輸入が自由化されていますからね、そやから海外で作った値段が日本の値段と競争できへん限りは、今後伸びるよりも、今まだ国産で作って競争力のある商品もどんどん国際価格で押されて潰れていくのが目に見えているから、縮小はしてもね、今言うように伸びるといようなこと、ものづくりではもう不可能やと思うんやけどね、どう考えても特殊な部分では多少は残っていくけど、それ以上に今まで国産していた部分は追いやられる可能性のほうが高いからね、そやからものづくりで生野を再生しようというのは、生野の未来というのは、どう考えても現実離れしていると思いますけどね。

○田中委員

ありがとうございます。宮崎委員のご指摘でございますけれども、ほかに何かこ

れについて、お願いいたします。

○山本委員

東桃谷、山本です。今、委員が発言されましたけれども、確かにおっしゃるとおりなんですけどね、ここの会議は、まちの未来を考える会議ですから、あまり後ろ向きな考えはやめて、今そうなっている状態をどないしたらもうちょっとええようになるんやろかとか、そういったことを考える場と思うんですよ。

だから、確かにものづくり、おっしゃるとおりで、だんだん少なくなっています。でも今日見ましたら、去年は23社追加して、最初のものづくり百景の100社集まったということですから、まだまだたくさんあると思うんです。1つはそういうことで、時間の関係もありますから、できるだけ前向きな発言で、後ろを向いたことは、できるだけこの場では、私はどうかと思います。

それからもう一つ、このものづくり百景ですけど、去年23社で100社になりました。この後はどうされていくのか、その辺ちょっとお聞きしたいんですけど。

○田中委員

ありがとうございます。これについては、いかがでしょうか。

○森地域まちづくり課長

皆さん、こんばんは。地域まちづくり課長の森でございます。着座にてご説明させていただきます。

令和元年度で100社そろったところで、1つの区切りでもございます。数年かけてやってきたところで、いいものができたのかなと自負しているところですけども、今度はこれをいかにPRをして周知をして、特に最初、宮崎委員さんからもありましたけれども、若い方に対してPRしてキャリア教育ではないんですけども、そういった視点も含めてアピールをして、自分のまちがこんなにいいところなんだと、こんなところに興味を持たせたとか、そういったところに気づいていただけるような仕組みといいますか、そういう視点で今後進めていきたいなというふうに思っているところでございます。以上でございます。

○山本委員

それはそれで、ぜひそういうふうにしていただきたいんですけど、私がもう一つお聞きしたいのは、100社集まったからもうこれでいいんやと。あとはもしそういうところがあった場合、どうされるのかなと思ったんですけど。

ものづくり百景であっても、別に110社あっても120社あってもいいなとは思ったんですけど、そういう意味であとまたそういうところがあれば乗せていくのかどうかも含めて。

○森地域まちづくり課長

おっしゃるとおり、100社にこだわることなくもっとあるかと思っておりますので、そのあたりの状況を見ながら、すぐにとということになるかどうかは分かりませんが、一定100社というところもありますので、そのPR、周知状況を見ながら、情報を収集しながらさらに追加してやっていけるところがありましたら、それについては考えていきたいと思っております。以上でございます。

○山本委員

ありがとうございます。

○田中委員

ありがとうございます。この数年、ものづくりに関して言うと、この100社ですかね、そういう事業者さんが若い人、特に二世代とか三世代の人たちが集まって情報交流をしているというような話もございますので、そこから何か新しいまたビジネスが生まれる、ものづくりが生まれるということも考えられるのかなという気がいたしますけれども、ほかに何かご意見等ございましたらお話いただければいいかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

先ほどちょっとものづくりのお話が出たんですけども、それは、宮崎委員がおっしゃったように若い人に住んでもらうということが一番だということで、じゃあものづくり以外にもほかに何か若い人が住んでもらうような仕組みとか仕掛けとか、あるかどうかということなんですけれども、何かご提案とかございますでしょうか、もしよければ聞かせていただけると、こんなことをすれば若い人が来てくれるよというような、宮崎委員以外にもほかの委員がもしご意見があれば聞かせていただきたいなというふうに思います。

○山本委員

若い人がというんですけど、私は結構若い人は生野区には入ってきていると思うんですよ。区政会議で私時々発言したんですが、空き家とそれから空き家対策、そのときに、皆さんも分かると思うんですけど、生野区のまち、自転車で回ってみますと、戸建ての家が結構たくさんできています。新しい戸建ての家が。ほんで、またすぐ売れているんですね、あれ全部。

ということは、家を買おうとすると、恐らく20年、30年のローンを組んで払うわけですから、60、70の人がそんなのできるわけではないし、やっぱり30、40、50代の人を買ってそこへ来ているわけですよ。ですから、そこへ入ってきた人たちをどのようにして地域に取り込むかと、そういうことを考えていただかなあかんのじゃないかなと私は思うんですね。

だから、若い人は決して少ないとは私思わないです。それは役所のほうでも統計か何かがあったら分かると思うんですけども、住宅の売れ具合とか見ていると、こんなところに新しいうち建っている、こんなところに新しいうち建っている、古いうちが今どんどん壊されて新しいうちに代わっています。それが皆売れているんです、本当に見ていたら、皆、人が住んでいるんですよ。ということは若い人が入ってきていると思いますので、そういう人たちをどのようにして本当に地域に、まちづくり協議会に取り込んでやっていけるかということを考えなあかんのちゃうかなと思います。

○田中委員

ありがとうございます。若い人が入ってきているということですけども、それに関してはいかがでしょう。戸建てが多いということですね。どうぞ。

○宮崎委員

それは、ここにいてるからちょっとうちの近所でも建て替えて入ってきているところもありますけれども、ちょこちょこあるけど、そのスピードはものすごいスロ

一なんですよ。世の中全体を見渡せばね。生野のこの自分の地区に住んでいたらね、それは何で出るかといったらコストですよ。土地が安くて、利便性の割には安いからね、生野区は。だから多少やって住んでいる人であったってね、それでたまに僕もその人、何でここに引っ越してきたんと言ったら、利便性の割にコストが安かったと、それで入ってきてどうやと言ったら、こんなところが日本にあると知らなかったって、こんな多文化な人がいっぱいいてはるというようなことは知らなかったって、引っ越してくるまでね。そう言うてはりましたわ。

よう、ここへ、新しく建てたから引っ越してきた人、何人かによく僕は直接聞くんですけどね、何でここへ引っ越してきたんって言ってね、そしたらみんな言うのはコストですよ。利便性の割に中央区のほうに自転車でも行けるし、環状線の向こうに渡ったら天王寺区やしね、それにしても余りにも安いと、値段がね。東住吉行くより、東成に行くより、生野区へ行くほうが安いと。何でこんな安いのかなと思っ

て買って入ってきたというねん。それで、入ってきて何感じるかと言ったら、こんなところが日本にあるって知らなかったってね、こんだけ外国人が多いというようなところはね。だからそんなことに意識がない人がいるやろうし、その空き家がなくて需要がどうこう言うけど、コストさえももっとも下がりゃあね、またそれなりに入ってくる。建築関係の人と深く話をすると、もう考えられんほど安いと言いますね。車が入れて、それで一軒の家が建てられるところの土地がね、こんなコストで、値段で売られているって、もう生野しまいやって、建築家が言うように、そんだけ値段が下がっているんですね、利便性の割にはね。

そやから、これ生野独特なんですよ。だから、その建て売り、新しい建て売り、入ったところも入ってきているようにあるけどね、そやけど、ほかの地域から見たらまだまだ。それはもう今の若い人は古い家を直して入ったりするの、ものすごく嫌がりますからね。だから若い人が入ってくるのは新しい家、つまり古い家を潰して新しく建てた家に入ってくるからね。そやから新しい家へ入ってきてくれるのは、70、80の老人じゃなくて、若い人が入ってきてくれると思いますよ。

それで今それが売れているというのは、ただただコストが安いだけですよ。土地が下がるに下がってしもたからやね、生野区に住んだら安いという、利便性の割には安いからね、地下鉄がそばになかったって、ちょっと自転車に乗れば地下鉄にも乗れるし、その割には土地の建物の家の値段が安いからということで住んでいるだけのことでね。

そんなに僕が期待しているのは、子育て世代、ここで生野区で子育てしたいと、生野区で子育てするほうが東成や東住吉や今の平野やら行くよりも生野区で子育てするほうが夢が持てる、未来が持てるというそういうふうになって住んでほしいなとは思わんすよ、未来志向やね、ここに書いてある未来、未来ということになってきたら、生野区で子育てがしたいと、生野区の学校へ行きたいと、生野区の小学校、生野区の中学校へこどもを入れて育てたいと、そんな世帯がもしプラス、増えたら、生野区はもう完全に再生すると思うけどね。

利便性はそんなに言わなくても、言うたら、生野区自体は交通は利便性は少ないけ

ど、生野区の周りを見渡せばどんどん地下鉄も延びてきているし、いろんな交通のあれもできてきているから、アクセスができてきているからね。そやから、今言う小学校、中学校が魅力ある学校にさえしてくれたら、生野区は再生できるんじゃないかなというのが僕の一番基本的な考え方なんやけどね。

○田中委員

ありがとうございます。すごく何か希望が持てるということですよ。やはり若い世代の人たちにとって、土地の値段が安いというのは、これ本当に一番の条件だということなので、あとは家が建って、実際住んでみるといろんなよさが分かってくるということですので、基本だと思います。

でも、例えば新しい家を建てるだけじゃなくて、古い長屋とかをリノベーションして。どうぞ。

○樋崎委員

樋崎と申します。今いろいろ話が出たんですけど、実際問題として、この前いただいた、今日いただいたので、まだそこまで行っていないんですけども、この前いただいたのをちょっと見ていたんですけども、生野区に住みたいと感じられる方が何パーセントとかいうこういう表があったんですよ。ありましたね。今まだそこまで行っていないんですけど、そうでないと、はっきり住みたくないというのかな、魅力がないという、それが60%って出ているんですよ。10人のうち6人があまり魅力を感じていない。

それともう一つは、若い方が増えたとおっしゃいますけども、実際若い方が増えればこどもが多くなる。そうなれば、学校の今の統合ですね。地域において統合するところしないところありますけれども、そういうことは起こらないんですよ、こどもが。

私も感じるんですけど、はっきり言って生野区は魅力がないと僕は思っています。ずっと住んでいますよ、僕も。やっぱり一番いいのは、長屋とかそういうようなことで隣近所のコミュニティというのですかね、それがいいと思うんですけども、実際先ほどおっしゃったいろんな数値が出されました、目標、実際現実そのパーセンテージなんでしょうかと僕思うんです。

いろんな地域の行事の補助金とか、そういうのをいただいていますけど、要はもっともっと若い方がおりたいと、今現在、生野区は独居老人の方がすごく多いんですよ。知らん間にお亡くなりになったり、そういう施設に入られて空き家になると。先ほどのあれから見ると、空き家率も大阪で3位か2位か、そんなんですよ。

そういうことで、もう一度根本的に若い方が住める、もちろんお年寄りのことも大事かもしれません。大事かもしれませんけれども、やっぱり若い方が住まわれて、僕は、そういう今までやっておられた、やっておられた方が悪いとかそういうのではないんですよ、これからこういう形を考えるなら、極端な言い方しますけど、誤解を与えるかも分かりませんが、若い方の魅力あるまちづくりを考えていただきたい。年いった方はいつかは亡くなるんですよ。でも、日本の今現在、この前も出ていましたけど、50万か60万、人口減っているんですよ。

やはり数は力ですよ、国力ですよ、だから生野がどんどん人が増える、住んでく

れる、そういうまちづくりを基本的に考えないかのじゃないかと。

だから、先ほど言いましたように生野に住んでよかったと、これから住みたいという、そういう形のことを考えていていただきたい。だから、今学校が空き校になってしまったりするんですけど、とりあえず若い子が来る、何か事業なり、そういう形のことを基本的に考えていくのがこれからのまちづくりじゃないかなと、介護施設も必要かもしれませんが、できたら介護施設なんですよ。お年寄りが行く施設ばかりができるんですね。

ですので、基本的にもうちょっと若い方が楽しく住まれて、こどもさんをたくさんつくれるということを考えていただきたいなと私は思います。以上です。

○田中委員

ありがとうございます。とにかく若い世代の人たちが住んでもらう、来てもらう、まずは来てもらう、住んでもらうということで、若い人たちの生野以外のところから来ていただくということですかね、が必要だというお話ですけれども、伊藤委員よくご存じですよ。若い人たち、世代が移り住んできて、自分たちのライフスタイルを発信しているという方もいっぱいいらっしゃると思うんですけど、ちょっとお話を聞かせていただけないでしょうか。

○伊藤（千）副部長

そうですね、すごくその若い人たちにとって生野区が魅力があるのかというお話が今たくさん出たと思うんですけど、私は生野区出身ではないです。外から入ってきた者としては、やっぱり生野区ってすごいおもしろいまちやなって思います。

長屋とか古い建物、路地とかもいいなと思うところたくさんありますし、ものづくりもやっぱり衰退はしてきて、一時期よりは衰退してきているのかもしれませんが、やっぱりその若手の方が新しくコラボして、新しい何か面白い格好いい商品が作れないかなということを思考錯誤していたりもします。そういうところも魅力的だなと思いますし、お風呂も、銭湯も格好いい銭湯がたくさんあるなと思います。

この前も、実は千葉県の方から4月に大阪に来た20代前半の女の子がちょっと生野区面白いと聞いたので案内してほしいと言われてまして、桃谷周辺辺りが多かったんですけど、コリアタウンとか、源ヶ橋温泉の辺りを歩きながら、ちょっと生野区を巡っていたんです。

その子も実は今は都島に住んでいますけども、そういう古い、自分で工事とかしながら住める建物があったらいいなって言って空き家を見学して帰られたりとか、やっぱりそういう数としては、まだまだ少ないのかもしれませんが、生野区に対して魅力を感じる若い人というのは、確実にいるのは肌で感じていますので、やっぱりそういう方々をどうやって捕まえていくと言ったら、ちょっと言葉がおかしいかもしれませんが、魅力を届けていけるのをどうしていくのがいいかなというのが私も一緒に考えて取り組みしていけたらいいなと思っています。

○田中委員

ありがとうございます。ほかに、どうぞ。どちらでも、まず、山本さんから。

○山本委員

先ほど、宮崎委員も言われたように利便性の割には生野区は値段が安いんだと、それも1つ生野区の魅力なんですよね、はっきり言ったら。そういうことで人が集まってくる、その集まってきた人たちをどのようにして地域と溶け込んでもらってどうしたらいいかなというのをここで話し合っ、それをまた行政で応援してもらおうと。行政に何でもかんでもやってくれと言ってもできるわけじゃないんですよ。やっぱりその地域に住んでいる人がいろんな知恵を出して、その若い人たちを取り込んで、どうしていったらいいかなということを考えることによって若い世代の人が仲間となって地域を支えてくれると思うんです。

そういう意味で、先ほど宮崎さんが言われたように、確かに生野区は安いから入ってくるんでしょうな。だから、それはほんま1つの生野区の魅力だと思うんですよ。入ってきた人は恐らくそこへ住んだら、それは途中で引っ越す人もおるかも分かりませんが、大概はそんなにね、ローンもあることやし、一遍買った家売って、ほかの家に移ることなんか、とてもできることじゃないですから、その人たちのもちろんそこへ取り込まなあかんという努力も必要ですけど、それを待っていたらなかなかできないと思うんですよ。

やっぱりこっちのほうからモーションをかけて何とか工夫して、そういう人たちを1人でも2人でも引っ張り込んだら地域が少しでも活性化すると私は思うんですけどね。

○宮崎委員

地域活性化のね、こういうことをしたらいいというのは、もう70も80もの人に意見を聞いてもじゃあないと思うんです。僕はもう50、60までの人に参加してもらってね、やったら全然、そういう会合に寄せて聞いたらやっぱり意見が全然違いますわ、考え方が。ああこんなんするんやなと思うようなこと、やっぱり5年、10年先の見えたことをね。

それで、この間ちょっとこれはあまり言うたらあかんのやけどね。連合振興協町会というのがありますのや、ここの生野区にはごつつういい、物すごくいい組織ですよ、19連合あってね、その組織の中で、一番基本的なね、パソコンも使えないんですわ、その組織はね。それでLINEも使えないんですよ。LINEで連絡しようにも80、90の人にLINEはどうやと言っても、わしスマホなんか使えへんというような人を相手にして、まちづくり協議会は、活性化って、それは無理な話ですわ。それは僕らでもどうにか触っているけど、そんな今の新しいいろんなできること、そんなことぐらいは簡単に触れるやつが役員になって入ってくれんことにはね。

だから、僕はこの地域活動協議会のいろんな補助金を全部やめても、その活動する役員、60ぐらいの人で、それで期間は2年に限ってやってもらって、それで月にある程度の金額、これで3,100万あるんやったら、60人雇ったら1人5万円ぐらい月に払えるからね、そういう自治役員を有料化して、それで今言うように若い人に入ってもらって、それでその代わりそんなに今の役員みたいに20年やっていますとか、30年やっていますとかいうようなばかな話はやめて、もう2年で、2年しかやってもらえませんが、その代わり給与はしっかりある程度払いますと、そういうふうなやり方に地域活動協議会の若返りを図らんと、もう今年なんかうちの振興町会で

も、どうしても町会長が何ぼ努力しても探せないんですわ。おらないんですわね、やってくれる人がね。だから、行き詰まってきているんですわ。

それで、この地域振興町会だけやのうて、青少年指導員活動協議会、青少年福祉委員連絡協議会とか、たくさんいろんな役員会があるんやけど、そのスポーツ推進委員協議会、いろいろあって、みんなそれぞれいいことやってくれているし、ええねんけど、その役員してくれる人が、受けてくれる人がおらないんですわ、高齢化してしまっただけ。

だから、僕は、もうその高齢化のブレーキをかけるには、思い切って地域活動協議会のお金、そのものを人件費に代えてしまってお金だけで来てくれるかどうかは分からんけど、それだけではどうかと思うけどね、そやけど、ただで、ボランティアでね、70、80の人にやってもらうというこの地域活動協議会は、あまりいいアイデアもいい生野区の未来のことを考えたら、未来なんかもう死んでいるんやからね、分からへん。その地域活動協議会の若返りを絶対的に図る方法というのを考えてもらったら、いろんなアイデアも出てくるし、生野、今、区長なんか一生懸命やっている学校跡地の問題にしたって、若い人が入ってね、いろんなことを考え方を持ってきてくれんことには、区役所の職員に負けん非常に若い人が入ってきて、相談に乗って一緒にやってくれんとね。

だから、そのためには、僕は地域活動協議会、活動に対して助成金を使っているけど、もうそんな地域がしっかりすれば、盆踊りなんかね、今言う大阪市、市のまち協から助成金なんかなくても、地域だけでできるんですよ、何ぼでも。それが一番ここの地域の強いのは、見てもらったら分かるだんじりですよ。だんじりでもたくさんあるでしょう。この間でも1つのだんじり改修するのに3,000万かかったんですよ、3,000万。そしたらそれ、大阪市の助成金なんか一銭ももらっていないんですよ。地域だけでそれをやり遂げる、そんだけまだ地域のパワーがあるんやね。

だから、別に地域が祭りや桜祭りやあれに助成金を出す、そんなことはせんでも活動人員の人件費、若い人に入ってもらおうようにしたほうが活動はやっていけると思うんやけどね。まだまだその地域に活力が、ここは今言う地車やとかね、地蔵さんもたくさん残っているし、それで神社もたくさんありますしね、生野区は。なかなか文化的な資産というか、歴史資産なんか結構あるから、だから若い人が入ってそういうことに参加してくれたら、地車を引っ張って、この間やって、おお、この地車を引っ張っているやつ若いから、うちの連合のほうに話できへんかなと思ったら、いや、宮崎さんね、これ生駒の人やとか、遠いところの人が来てやっていますのやでと言われたからやね、ええって言うてね、地の者おりませんのや。遠くの人がこのだんじりを引っ張りたいたいとか、だんじりなんかしたいというような人が結構ね、遠くの人でもいてはって、そういう人が結構協力してやっていますと言うてはりましたからね。

そやから、結局若い人が欲しいわね。どう考えても、地域活動、未来は若い人、それで若い人がやるためには、今言うようにお金が要るんやったら、そっちのほうにお金を使ってもらったらええんと違うかなと思うんやけどね。

今言うパソコンもLINEも分からんというような者がやったら、やっぱり地域

は発展せんと思いますわ。

○田中委員

ありがとうございます。山本委員、お願いします。

○山本委員

宮崎委員の意見も分かるんですけどね、もしその、私も昔言ったことがありますよ、区政会議で、まち協の事務局は大阪市から人を派遣してくれと、職員が来て地域を活性化してくれと言ったことがあります。ですので、ただ宮崎委員が言うようにそれができるんやったら、自分とこでお金を出して人を雇ってやったらいいわけですよ、そんだけ資金が集まるんやったらね。やって活性化させたらいいわけですよ。別に大阪市の補助金を頼まなくても、だんじりが3,000万すぐ集まったとか、そういう話があるんでしたら。

こういうことやるのは、何も役所がやるんじゃないで、我々自身がやらないかん、どないしたら活性化するということを考えないかんわけですけど、役所に何ぼああしてくれ、こうしてくれと言っても役所ができるわけじゃないので、どうしたらいいかということここでみんなで話合いをして、できるだけ後ろ向きな発言はもうないようにしたほうがいいと思うんですね。これからどうしたらいいんやろかとか、そういうような話はいいいけれども、これはもう駄目やとか、そういう話はできるだけね。

それと若い人の意見が入っていないと。でも、本当に我々は若い人たちの意見を持ってここへ来なあかんわけですよ。自分の意見だけ言いに来るわけじゃないんですよ。地域で会議があったら、そのときの若い人の意見を聴いて、宮崎さんも言われたように確かに、でも地域にはちゃんと組織があります、青少年福祉委員、それから防犯、本当にいい人がたくさんいてるんです。うちの地域でも正直、今年まち協の理事長を選任するのに、宮崎さんの話やないけど、本当に困りました。無理を言って、なってもらっています。

ですけれども、それはやっぱり地域が解決せなあかんことでね、私思ったんですけども、私の地域でもそうですけど、組織自身がみな仲良し会みたいになってしまっ、なかなか抜け出さないんですよ。今は青指が50歳が定年かなんかですから、青指が抜けたら、できたら青福行って、防犯行って、町会行って、町会長になったり、その町会長まとめる役になったりしてほしいんですけども、それは我々自身が考えんと何ぼ役所に言ってもできないと思うんですよ。それをするためには、地域でどんなんしているかとか、こんなんしているかというようなことを持ち寄ってできることはやっていったらいいん違うかなと思うんです。

ですから、宮崎さんも言われたように、今度出るときは、一遍若い人の意見も聴いて、ここでそのまま言ってもらったらいいかなと思うんですよ。はっきり言って。

○田中委員

ありがとうございます。非常に心強いご意見をいただいたかと思います。やはりそのまち協の在り方というか、ご説明のあった16ページと17ページですね、こちらのほうにその地域活動協議会の自律運営の促進というのがあって、まちセンの支援を受けた団体が支援に満足している割合というのは、結構高い78.8%で、いろいろ

な支援を受けて運営しているということが分かるんですけども、さっき宮崎委員がおっしゃったように、何でもかんでもボランティアじゃなくて、補助金もそうですけども、それを例えば事務的なことですかね、パソコンとか、それとかLINEとかの使い方とか、それ以外にもいろいろ会計の処理の仕方とか、あるいはすごいパワーが要るようなだんじりのだんじりを引くとか、そういう地域の活性化につながるようなそういう人をちゃんとお手当というか、お支払い、人件費としてお支払いして運営していくのが妥当だというお話だったかと思います。そういうのも1つ方法だというふうに思います。

先ほどだんじりの3,000万円を皆さんで集めて改修したというお話なんかもすばらしいと思います。そういう話もあったと思うんですけども、ほかにちょっとご発言されていない方、どうぞ。

○石崎委員

巽東の石崎と申します。よろしく申し上げます。私もこれまちの未来部会の委員させてもらって考えていたんですけども、区長さんにも新年会るとき提言しましたけど、お年寄りだけじゃなくて、私たち、もっと若い人も一緒に参加していろんな意見を出してもらおうと、そしたら、区長さんはそういうのはやっていますということだったので、それだったら、またそういう意見もお聞きしたいなと思って、こどもたちのね。

それでずっと考えていたんですけども、このコロナで全部飛んでしまいました。正直言って、今日参加すべきかどうか考えました。細かいこと考えられません。今地域活動も全然できませんし、地域の集会も全然開けていません。そしてうちの役員大体40代、50代が多いんです。比較的若いんですけど、みんな働いています。それで休業要請とか、それで給料を減らされているとか、とにかくだから会合も持てないから、自分の生活を守れと、それが一番だということによってありますから、だから、会合とか全然開けませんし、これが収まるまでちょっと何もできないなど。

また、地域でもやっぱりいろんな生野まつりも中止になりましたし、地域で巽4地区でね、雪祭りとかやっているんですけども、それも2月ですけど、できるかどうか分からないと。だから各部署いろんな行事とかできませんので、正直言って、今はその生野区の未来を考えるというのは、ちょっと私には想像できないです。お話はいいんですけどね、だから。

それとまち協は補助、多分これから少なくなると思うんですけどね、いろんなことで行事ができませんから、そういうのをちょっと、例えば消毒液とかいろんなコロナ対策でちょっといただけたらなど、それは思っています。無理だったらしょうがないなど、地域でやるしかないなと思っていますけど。

一応だから考えなきやいけないでしょうけど、ちょっと今はこれが収まらない限り無理だなと思っていますので。

○田中委員

ありがとうございます。ちょっと大きな議題というわけではないんですけど、やっぱり今の状況からすると、そのコロナ禍でストップしているいろんな活動やイベントがある中で、やはり活動を活性化するとかという話がなかなか前に進んでいか

ないというようなお話だったかと思いますが、そのことに関して皆さんいかがでしょうか、何かこんな方法もあるんじゃないかとか、もしご助言いただければありがたいかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○山本委員

私たちの地域では100歳体操をやっていました。それも1回30人から40人が集まるから、それこそ今はそんなことやられていた時期じゃないですよ。でも3月、4月、5月、6月までで全部取りやめになったんですけど、事務局のほうから話を聞くと、ほかの地域ではぽつぽつやっているところもありますよという話で、じゃあ、どないしてやるかということで、今まで例えば第2火曜日の2時からやっていたんですよ。じゃあその第2火曜の10時、11時、それから2時、3時と4回に分けてやったんですよ。今まで10人足らずでやろうじゃないかということで、案内を出したわけです。もちろんうまいことなかなか人数そのとおりになりません。その辺は調整します。

それで、この7月、まずはその案内を出したら、参加しますかといったら、お年寄りたちが登録数は47~48人ぐらいいてたわけですけど、40人余りが返事が来たんですよ、参加しますということですね。だから、皆さんやっぱりよっぽど外へ出たかったと思うんです。それで第一希望、第二希望、第三希望、第四希望ということで4回に分けて、7月第1、第2、第3火曜やったんですけど、第4火曜のときに、その前に大阪市が何かちょっとだんだん大変なことになってきたから、どないしようかということで、とりあえず第4はやめておきましょうかということでやめたんですけどね。

これからの運営にしても、もしちょっと収まってきたら、そういう運営の仕方をしてたら一遍に40人を集めんでも、ほとんどいいたらビデオ流すだけですからね、あとはお年寄りが帰ったら消毒する、そういうことで少しでもお年寄りが外へ出られるようになるん違うかなというような事例です。

○田中委員

ありがとうございます。避難所のお話でもありましたけれども、分散させるという話ですよ。時間的に分けて分散すると少人数で活動はできるんじゃないかというご指摘がありました。

○山本委員

密になりますからね。

○田中委員

密を避けるということ、ちょっといろんなやり方を工夫してやると、避けられることもあると思います。

やはりちょっと一番困るのは、外に出られないからといって閉じ籠もっちゃって、逆に気分が悪くなったり、体調が悪くなったりすることもあるかもしれないので、特に高齢者のお一人暮らしの方ですね、そういうこともありますので、ちょっとやり方というのを工夫するというお話だったと思います。お願いします。

○山本委員

先ほど異東の委員の方から発言がありましたけど、助成金の件ですね。今年は、

本当に皆行事が取りやめになって、皆返さなあかんのかなと思っていますけれども、できたら、本当に大阪市が認める範囲内で、何か備蓄品を買うとか、そういうことに対しても本当に認めてほしいなと思うんですよ。

それとこの助成金も昔は、100万円もし助成金もらったら、100万円使ったら、全額助成金おりにいたんですよ。それで橋下さんの時代になって、100万円もらったら150万円使わなあかんようになったんですかね、今、ですよ。最初皆さんブー言っていました。そんなことできるかいと。

でも、現実的には、今ちょっとお役所の人に聞くんですけど、まち協でそのもらった助成金を返す地域ってあるんですか。余ったら大体皆さん、返戻する地域ってあるんですか。いや、きっちりしたあれでなくても、別に。

○森地域まちづくり課長

はっきりした数字というのは、申し上げられませんが、幾つかの地域では金額の多寡はあるかも分からないんですけども、あるというのは聞いております。

○山本委員

分かりました。

○森地域まちづくり課長

今年度につきましては、当然今おっしゃられたようなことはありますので、ひょっとしたらというのはあるかも分からないですけども、私ども要項のほうも緩めるといって変ですけども、極力使いやすいような形に変えていっているところもございますので、今言われたような密を避ける工夫をしていただいて、何らかの形でやっていただけたらなど。それが地域のご高齢の方も含めて閉じ籠もりとかにつながることはないようなところに持っていけると思いますので、私どものほうからはそのような形で活用していただけたらなど。

ただ、やはりルールというのが、曲げられないルールというのがどうしてもございますので、そのあたりを見据えながら、どういうふうにそのルールをうまく活用していけるかというあたりもご相談に乗りながら支援をさせていただけたらなどというふうに思っております。以上でございます。

○山本委員

今、返す地域もあるとお聞きしました。もちろん、ないことはないと思います。でも100万円もらったら100万円返すところはないと思います。それは5万とか10万とかはあるかも分かりませんがね。

ということは、100万もらったところでも、恐らく130万とか140万使っているわけですよ。結局はみんながいろんな知恵を出し合って、昔は100万円もらったら100万円だけの領収書を出したら皆もらえたやつを、今度は150万使わなあかんけど、どないしたらいいかということのをいろいろ考えてやってきた。だから、みんないろいろ考えてしたらできるんですよ。あかんと思ったら、絶対もうだんだんあかんようになっていきますから、じゃあ100万円もろてこれ返さないのにはどないしたらいいやろかということのをみんな考えて、今おっしゃられたルールに合うような使い方をしたらいいわけですから。

特に今年はルールの解釈の仕方かどうか分かりませんが、今予算とかいろいろ

出していると思うんですけど、今は予算流用できるんですよ。A B C Dと予算が出ていても、Aが残ったりBが足りなかったりしたときは流用できるんですよ、昔はできなかったですよ、あれはね。Aで10万円を出したら、そこで10万円使い切らんとあかんかったんですよ。

○森地域まちづくり課長

変更申請というのをしていただきましたら、その範囲内でできるということになると思います。

○山本委員

確かにその変更申請なんですけどね、それもあまりがちがちにやらんと、今コロナでもそうですよ。雇用調整助成金でも、あれも計画届け、その計画する前に出さんと助成金がおらないんですよ。でも、後出しでもいいと言っているんですよ、そんな時期なんです。だから、変更届けが出ていないからこれに使ったから駄目やとか、そういう考えじゃなくして、やっぱりある程度その地域のために役に立つと思うのやったら、今おっしゃられたような使い方できるようにしていただいしてほしいんです。

だから、変更届けを出す前に使ったからこれは駄目ですとかそういうあれじゃなくてね、極端なこと言ったら、終わってからこれは変更届け出してくださいとか、これはこういうふうにしてくださいとかいうような形で、もっと地域でそれが有効に、本当に返さなくても済むような形でやっていってあげてほしいと思います。

○田中委員

ありがとうございます。ほかに何か、よろしくをお願いします。

○樋崎委員

話はちょっと変わるんですけども、生野区政三本柱というのがされていますね。この中で子育て世代に選ばれるまちづくり、それから二番目に生野らしさを生かしたまちの魅力、それから三番目に世界につながる生野区ということで、今現在外国の方多いので、そういう形で三本柱、ビジョンとして挙げておられますよね。

それで、私思うんですけどね、これからの生野、どれをメインに、やっぱり二兎追う者は一兎を得られないんですよ、何かを目標にして魅力あるまち、もちろん三本あったらそれでいいんですけども、ですので、その点をこれからどれをメインに行政をやっていかれるつもりなのか、ちょっとお尋ねしたいんですけど。3つともやるものなのか、ワン、ツー、スリーって決めているものなのか、ちょっとお聞きしたいです。

○山口区長

参考資料1のところに区政三本柱という項目3つ目のところにあるんです。1つは、おっしゃるように子育て教育環境の整備、2つ目が空き家対策というふうに書いてあります。3つ目が多文化共生なんです。

空き家対策と子育て教育環境の整備というのは、結構一体のもので、結局のところその魅力のある学校も、今こどもの数がどうしても減っている中で、再編を機にいい学校をつくる、通わせたいと思える学校をつくる、当然学校の周りに住むわけですから、家がないと困るわけです。

残念ながら、生野区はここまで人口が減った最大の理由は、マンションが建たない、分譲マンションが建たないことに尽きます。それはもうここ5年間で24区中、唯一分譲マンションが建っていないのが生野区です。悲しいですけども。

その理由をもっとたどっていくと、結果的に大きな土地がなかなか空かない。大きな土地がちょっと空いたかなと思うと、ちょっとお話にありましたけれども、介護施設とかになりがちであったりというところの大きな課題があります。ただ、ちょっと状況的にはこの数年間で、確かにみんな都心というか、近いところに高層マンション買って、すごいぎゅうぎゅう詰めの生活をしているのが、価値観がちょっと変わってきたというか、コロナもあるんですけども、戸建てを買って、都心のマンションより安く買えますので、戸建てを買って地域の人とつながりながら子育てをしてというところを空き家対策としてどんどん戸建てを増やしながらかっていくというのが1つの方向性です。

要は、だからガバッと増えることは狙わないけど、とにかく微増を狙うというのが戦略ですし、日本全体の少子化を考えたら、微増すれば万々歳で、現状維持すら危ないというのが正直なところですよ。

もう一点、多文化共生はどういうふうに関わってくるのかということなんですが、実は、生野区の人口は年々下がってはいるんですけど、その下がり度合いを食い止めているのが急に増えてきたアジア圏の留学生たち、若者です。特にベトナムの人は24区中一番多いんですけど、2,000人を超えていますので、そういったアジア各国から日本で学び、働き、暮らし、入管法というのが変わりましたので、今後定住していくという人たちが実は結構、生野区の人口を支えているという面があります。

この部分でいくと、もともと多様性のまちだと私は思っていますので、多世代、多文化のまちなので、この魅力をそのまま新しく来た外国の人たちにも、ああ、このまちは暮らしやすいな、もともといる子育て世代も、このまちに住んでいるだけで外国の友達がいっぱい増えて、こどもたちがグローバルな考え方を持って育っていくまちってええなというふうに思ってくれると、相乗効果があると考えています。

だから、この三本は一体なので、若い人を増やすのに、例えば多文化共生は外したとしましょう、外したとしたら、やっぱり増えないと思うんです。もう日本の人口からいったら増えないし、このまちはそういう排他的なまちではないというのはすごく思っていますので、できれば一緒にともに生きていく、いい影響を与えながら生きていくまちにできたら、ものづくり産業もやっぱり後継者がいないとか、支える若い職人がいないというところも外国の人たちが埋めていく部分もあるので、何とか一体でやりたいというのが私の思いです。

○田中委員

ありがとうございます。ほかに何かご意見とかご質問とかございますでしょうか。お願いします。

○石崎委員

ちょっとお聞きしたいんですけど、実は独居老人が多くなって、それがお母さんが亡くなって、ちょっと不安になって、自分が80を過ぎているんですけど、痴呆が出たら当然介護施設を紹介しますよね。それでも要は死んだときの葬式とか後片づ

け、それでちょっと後見人になってくださいというのが2人おりまして、最近。でも、それはお金を預かることだからできませんと、だから、ちょっと知り合いで司法書士さん、弁護士さんいるんですけど、聞いたらやっぱり1か月で数万円要るらしいんですわ。そのときの手数料じゃなくて、生きている間ずっと払わなあかんと。

あとどこかないかなと思って、公証役場ですかね、それちょっと電話していませんけど、そういう人がちょっと増えそうな感じなんですよね。だから、後片づけとかそういうのは町会でやってやってもいいんですけど、その人が言うんです、夜も眠れないと、お母さんが亡くなって、自分がいざ突然痴呆になって、そういうときに役所はありますか、相談窓口。

○櫻井副区長

副区長の櫻井でございます。今のご相談の件につきましては、社協のほうの見守り相談室とか、そのあたりでまた個別に対応させていただきたいというふうに思っていますので、よろしくお願ひいたします。

○石崎委員

そうですか。

○田中委員

ありがとうございます。多世代の皆さんが心地よく暮らし続けられるという点でも認知症になられた方のその後見人制度等、非常に経済的にも大変ですし、サポートが必要だということ、窓口はどこかということ。

○石崎委員

生活費は自分で持っているんです。そんなにはないですけど、生活するには十分あるんですけど、その親戚にね、例えばご兄弟とか、そういう人がやっぱり遠いわけですよね、地方ですから。九州とか四国、それでもうお年だから出てこれないと。その甥っ子さん、姪っ子さんでもそんなになじみがないと。だから、頼めないということで、ご近所なのでなってくれないかと。だから、葬式であれば葬儀屋に払っておくと言うけど、それはあきませんと。民間に払って潰れたら戻ってきませんよということ。でも、私が預かるわけにはいかないですから、それでちょっと司法書士さんとか弁護士さんに相談したら、それは私たちは、やっぱり毎月幾らいただきますということで、そうすると、10年も生きてかなりの金額になるので、それこそ今度は生活に困ってしまうという形なので、どうしたものかなと思って、それで区役所にそういう窓口があったら、ちょっと教えていただきたいなと思ったから言ったんですけど。

○田中委員

ありがとうございます。社会福祉協議会のほうで窓口があるということですので、ありがとうございました。

かなりいろんなご意見が出てきたと思うんですけども、これだけは言っておきたいとか、ここの部分は頑張っているよというお話があれば聞かせていただければと思います、いかがでしょうか。

○伊藤（千）副部長

海外のベトナムの方が特に多く入ってきているというお話ですとか、このコロナ

の中、どうイベントとか地域を盛り上げることをしていったらいいのかというお話が出たと思いますので、参考に私がこの前友達と一緒に遊んだことをご紹介しますね。

私の知り合いが以前からゲストハウスを生野区でやりたいということを言っていて、相談に乗っていたんですけども、今里のほうでもともと料亭をされていた建物を気に入って、そこを購入してゲストハウスを始めたのはいいんですけども、こんなコロナの時代になってしまって、やっぱりお客さんも泊まってくれないと。自身やっぱりいろいろ海外を旅してきて、いろんな旅人と出会うこととか、海外の魅力とかも分かっている子なので、ただ、宿でお客さんを待っているだけではなく、自分で何か魅力を発信できないかなということを考えてはるんですけども、ちょうどやはり今里の辺りって、ベトナムの方がすごく多く住んでるようで、ベトナム料理屋さんとか、ベトナムの食材のお店もたくさんできていて、もうリトルベトナムになっているなどその子は言っていたんですね。

そんな話を私も含め、数人ちょっと面白がって、それでしたら、私たちが1泊その宿に泊まらせてもらって、そのリトルベトナムの今里をちょっとまち歩きしたり、おいしいご飯屋さんでご飯を食べて、夜銭湯に行って、朝また喫茶店でモーニング食べて帰ろうかということのを企画しまして、この前、ちょっとうろうろしていたんですけども、1人小さい3歳ぐらいのお子さんを連れてきた方もいて、子どもさんも一緒にそうやってまちを歩いたりお風呂屋さんに行ったりするのは、すごく私自身楽しかったですし、参加した方も生野区以外から来てくれた方ばかりだったので、すごい今里の面白さにも気づいて帰ってくれたんじゃないかなと思っています。

また、そんな少人数でちょっとまちを歩くとか、何かそんなことはできそうかなと思いますし、やはり海外の方が入ってきているところを魅力的に見せていけることができるのかなとちょっと思いました。

○田中委員

ありがとうございます。このゲストハウスのお名前って、言ってもいいですかね。

○伊藤（千）副部長

多分大丈夫やと思うんですけど、ホステル奈（からなし）さんというところで、奈良県出身の方なので奈良県の奈という漢字一文字、あれ「からなし」と読むらしいんですけども、それでそういうお名前です。

○田中委員

ありがとうございます。実際にそういう今里のほうでゲストハウスされている方がいらっちゃって、まち歩きなんかもして楽しみながら活動されているという様子がすごく伺えていいかなというふうに思います。ありがとうございます。

でしたら、ほかはご意見とかございますでしょうか、お願いします。

○山本委員

11ページの広報紙の件ですけどね、一番下のほうに広報紙を読んだ区民よりということで4つ書かれています。3番目の読み物として毎月楽しみ、読みやすく読む気になった。これは私もそういうふうに思うんです。この広報紙なんですけど、

私1年か2年前か忘れたんですけど、何か急にガラッと変わったんですよ。それで一遍聞いたことあるんですよ、業者さん代えたんですかと。

いや、そうじゃないんですよと、皆自分とこで手作りでやっていると聞いたのでね、余計びっくりしたんですけど、本当に私も毎月楽しみにしていますし、それで今たまたま今日資料で入れてもらっていますけど、本当に何となくパッと見ただけで明るい感じがするんですよ、ページ開いてもね、本当に僕はここに書かれているとおりにやと思います。本当に読みやすくて、何か見ただけで明るい感じがします。以上です。

○田中委員

ありがとうございます。本当に優しい色を使っていらっしゃって、読みやすくてホットな気持ちになるというか、ですよ、広報紙、本当に私も思います。この最初の表紙のイラストなんかというのは、本当にいろんな人たちがいるんだなという感じを、本当にいろんな人たちというか、多様な文化があるというのがすごい表現されてていいかなというふうに思います。ありがとうございます。応援のメッセージだったかと思います。

いろんな話が、ご意見が出てきましたので、ほかには特にないでしょうかね。でしたら、その他ということで、いかがでしょうか、次第の中でその他というのがあるんですけども、これに移らせていただいていた方がいいでしょうかね。

○橋本企画総務課長

今ご議論いただいている中で、それ以外があればということでございます。

○田中委員

そういうこと、ごめんなさい、そういうことですね。

そうしましたら、もういっぱい意見を言ってくださいましたので、これでご意見がないようでしたら、意見交換を終了させていただきます。

では、マイクを副部会長のほうにお渡しします。

○伊藤（千）副部長

田中委員、ありがとうございます。事務局からの連絡事項などありましたら、お願いできますでしょうか。

○橋本企画総務課長

委員の皆様、大変お疲れさまでございました。本日たくさんいただきました貴重なご意見につきましては、事務局のほうでひとまず整理をさせていただきます、部会長、学識委員と調整をさせていただきました上で、次回の全体会で全委員の皆さんに共有化を図ってまいりたいと思いますので、よろしく願いをいたします。事務局からの報告は以上でございます。

○伊藤（千）副部長

ありがとうございます。それでは、本日の会議を踏まえまして、山口区長のほうから一言お願いいたします。

○山口区長

委員の皆様、貴重なご意見をたくさんありがとうございます。そして力強く若い人たち、子育て世代に対してもっともっといろいろなアピールをしていってほし

いということで、またそれを受け止めて私たちもしっかりやっっていこうと思っています。

ここに一緒に入っていたチラシで、こども地域包括ケアシステムが始まりましたというのがあります。もともと地域包括ケアシステムというのは、割と高齢者の方であったり、障がいのある方向けの地域福祉ネットワークなんですけれども、あえてそこにこどもという言葉をつけて、またこども専用のCSWと言われるコミュニティソーシャルワーカーを入れて、また区内にある子育て支援施設であったり、こども食堂であったり、子ども子育てプラザであったり、いろんなところが情報共有する仕組みを今構築しつつあります。

私も子育て世代なので、住みたくなるまち、当然働きやすいとか仕事に行きやすい、そこそこ広い家に住める、教育環境がいい、あと保育園に入れる、実は生野区は割と保育園には比較的周りの区よりも入りやすい。そこはアピールもしっかりしていきます。

あとやっぱりこのコロナの中でどんなことが起きていたかという、みんな遊びに行くところが本当になんていんです。学校は夏にプールをやっていない、うちの息子のところも小学校5～6年生だけプールです、プールに入れない。そういうときに、例えばご近所の方が昭和の頃、多分昔あったと思うんですけれども、路地にビニールプールを出して、何か近所のお母さんとかが適当に周りで見守りながらそのビニールプールにこどもが入って水鉄砲をしたりとか、キャーキャー言っているみたいなものが今こそ必要なんやというのは、ちょっと思うところなんです。

ですから、地域活動というのは、やっぱりそれぞれの地域で工夫して、子育てサロンとかいろいろやっただいて、今は何もできない状態ではあるんですけれども、改めて毎週土日になったらショッピングモールに行くとか、そういう遊び方じゃなくて、近所で本当にこどもと一緒に楽しめる何か場所があるとか、そういう地域の活動があるというところに、人は多分住みたくないと信じているので、また皆様方にもいろんな形で地域活動を頑張っただいて、その魅力を私たちしっかり発信もしながら、一緒に子育て世代が住みたくなる、子育てしたくなるまちを目指して頑張りたいと思っていますので、また引き続きよろしくお願ひします。今日はありがとうございました。

○伊藤（千）副部長

ありがとうございました。区政会議は生野区の将来について、区民同士が率直に情報交換をしたり、意見を語り合える貴重な場です。今後も活発なご意見、ご議論をいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

それでは、これにて本日のまちの未来部会を終了したいと思います。皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。